

第4回 吹田操車場跡地まちづくり計画委員会 議事要旨

日時：2007年10月25日(木) 10:00～11:00

場所：吹田商工会議所 大会議室

○次 第

1. 開 会

会長挨拶

2. 案 件

(1)吹田操車場跡地まちづくり計画委員会設置要項の変更(報告)

(2)前回(5/10)以降の経過(報告)

(3)コンペ作業部会の検討結果(報告)

(4)今後のまちづくりスケジュール(報告)

(5)その他

3. 事務連絡

4. 閉 会

[出席委員] 9名(うち代理1名)

[オブザーバー] 3名

○開 会

会 長 　ただいまより第4回吹田操車場跡地まちづくり計画委員会を開催させていただく。本年度2回目の「吹田操車場跡地まちづくり計画委員会」開催に関して、御多忙の中、御出席を賜ったこと感謝している。

　本年5月10日、第3回計画委員会の開催以来、約5ヶ月が経過した。この間、摂津、吹田の両市は、6月に策定していただいた「吹田操車場跡地まちづくり全体構想」を踏まえ、関係各機関との調整や事務手続きを進めて来た。今後、平成23年春のまちびらきを目指し、具体的なまちづくりに向けて、導入を図る機能や施設の検討が本格化する。

　前回、このような動きを視野に入れコンペ作業部会を設置し、コンペのあり方を検討していただいた。本日は、コンペ作業部会より検討結果の報告と、土地区画整理事業の実施にあたり関係6者が近々に締結する基本協定の内容についての説明を主たる議題とする。また、前回委員会以降の状況と今後のスケジュールについて事務局から報告を受けたい。

○吹田操車場跡地まちづくり計画委員会設置要項の変更(報告)

事 務 局 　(資料1について説明)

※上記の説明に対して、委員からの質問は無かった。

会 長 　人事異動により2名の新委員を迎えたということもあり、改めて全員に吹田操車場跡地のまちづくりへの考えや感想を述べてもらいたい。

副 会 長 　当初は吹田市東部のまちづくりに参加するという立場からスタートしたが、今回のまちづくりは1足す1が3にならないと市民の理解が得られないという認識を持っている。難しい問題は多々あるが、それぞれの立場を尊重しながら、課題、共通認識をしっかりと持ってこれから前を向いて歩んでいきたい。

摂津市では南千里丘のまちづくりが先行して進んでいる。規模はそれほど大きくはないが、民間の企業から環境に関する興味深い提案がなされている。これが良い成功事例となり、ノウハウを吹田操車場跡地に活かせば良いと考えている。

また、吹田操車場跡地は水というテーマに対し希薄ではないか。唯一この地区の中で山田川という水量が見込める一級河川がある。これを活かさない手は無い。今後関係機関と協議していかねばならないので、よろしくお願ひしたい。

最後に、処理場の問題がある。難しい問題だが、協議を重ね、大阪府も前向きに動いていただいております。摂津市も前を向いてまいるのでよろしくお願ひしたい。

副会長 私がサポートできるのは医療・健康に関するところと認識している。今般、市民の健康への関心は非常に高いものがある。また、日本の医療も大きく変わろうとしている。この地区に健康・バイオ・医療関係の機能をもたすことができれば大きな役割を果たすと考える。

委員 私が2003年に着任しており、建築環境デザイン研究室を開設した。これは造語であり、従来では建築・環境デザインという表現であったと思う。建築環境デザインという造語は、建築及び建築を取りまく環境全体のデザインを考えたいということをつくった。まちをつくっていくために建築がどのようにあれば良いのか、あるいは、建築として物を置いたときまちはどうあれば良いのかという相互の全体的な、総合的な考え方で環境というものは考えるべきである。従来は、建築と土木といった縦割りで、全体として成り立つための建築という考え方が希薄であった。

この吹田操車場跡地というのは、非常に細長い形状をしている。私は細長い景観というのはすごく連続感があり、敷地形状そのものが良いポテンシャルをもっていると思う。つまり、まちと関わる長さが非常に長い、色々な所と接触している。接触していく環境が非常に重要である。全体を一体としてどういった環境をつくっていくのか。水、緑、自然、環境等がうたわれているが、ぜひ、梅田の北ヤードとは好対照の新しい全体環境、市街地環境とも自然環境とも一体となった新しい環境デザインのモデルとなるような提案が、吹田操車場跡地から世界に発信できるようになれば良いと考えている。

委員 私は経済が専門なので、これから全体構想を具体化していく段階でなにかお役に立てればと考えている。たとえば、まちづくりの基本方向にボーダーレス社会への対応がうたわれているが、どう具体化していくかは明記されていない。これから、全体構想に基づいたプランを作成する過程でなにかアイデアを出せればと思う。

委員 これまで、まちづくりはハードの部分についてしか話されてこなかったが、90年頃から行政やUR都市機構もソフトの方が大事だと認識するようになった。現在、市民の意識は高まってきている。つくる側と供給される側とがうまく合意をとっていく、そういう社会づくりがこれからは大事である。市民は環境に対して鋭敏な感覚を持っている。これからは、環境はディスチャージではなくてチャージだという考え方に立つべきである。全体のモデルとなるシンボリックな、環境ビジネスとまではいなくても、環境経済というものを確立できるような提言をさせてもらいたい。

委員 以前、この地域の土木事務所長をしていたこともあって、貨物駅移転等様々な問題があったことは良く承知していたが、まちづくりの取組みがここまで進んでいることに関して、吹田市長・摂津市長の努力に対し敬意を表したい。先ほどおっしゃったようにこの細長い土地をどう使うか非常に興味深い。また、環境を一つのテーマにしているのは良いと思う。ただ、他に例の無い何か違ったもの、特色のあるものが出来れば、多くの人を訪れるという仕掛けとなるようなものをつくってほしい。物をつくる予算が少なくなっていく中、コンストラクションの喜びも大事だが、クリエイションの喜びも味わえと土木の技術者に言っている。

行政主導の駅前広場、駅前再開発などのまちづくりにおいて、事業完了後の維持管理が充分できないことによって寂れていく事例がある。しかし地域の方々がまちづくりに関わってくると、継続性が出てくる。これから新しいまちをつくっていくにあたり、そういっ

た地域との関わりが大事である。

処理場については非常に大きな問題があるが、処理場が既にあるということ逆転の発想をしてうまく利用する手もあるのではないかと考えている。

委員 計画地は細長い形状をしているので、良い面、悪い面の両方がある。できれば良い面を上手く使えたらと思う。先ほどもおっしゃったが、このゾーン内だけでなく、全体を見た、周辺も含んだコンセプトが重要である。

緑と水と言っているが、水についてのものが無いので、せっかくの細長い形状を活かして上手く流す事により、水だけでなく他にも繋がりというものが出来る。そういうコンセプトが非常に大事である。これから工夫が出来ることを、大阪府や国土交通省も努力したい。

また、先ほどおっしゃられた人の関わりというのは非常に大事である。特にまちが維持され、かつ、上手く使われていくためには市民との関わりは極めて重要である。例えば緑を上手くみんなで維持すれば、自分たちの庭だと思えば関わり方も変わってくる。

当地の計画について、他省庁のことまではいえないが、国土交通省としては、全国の先鞭をきって、これまでの考え方や基準にとられない提案等をいただければ、大阪府やUR都市機構、そして両市とも協力して実現に向けた努力をしたい。

委員 このプロジェクトは吹田、摂津市域にとどめるものではなく、鉄道を使うと京都、神戸方面へ短時間でアクセスが可能であるから、そういった利点を活かせる計画になれば良いと思う。今後ともそういう視点で発言をし、参画したい。

会長 23年間放置されていた吹田操車場跡地の活用は、長い間、吹田の議会も含め市民の間でも懸案事項であった。昨年から大きな歯車が動きだし良かったと思っている。

吹田は近世までは、神崎川の水運で発展したまち。近代は、東海道線ができ鉄道のまち。最近では、高速道路が整備され東西日本の結節点、京阪神のクロスロード、そのような交通環境、利便性、また、阪大、国立循環器病センター、千里ニュータウン、万博記念公園、北には彩都、南には梅田北ヤードといった都市拠点周辺に多くある。そういったポテンシャルを活かし、梅田北ヤードに負けないというか、梅田北ヤードとは違った個性のある、また彩都とは違った個性のあるまちづくりを目指したい。そのキーワードが「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」である。皆さんおっしゃっていたように、吹田は水のまちであったことから、水という切り口で、単に「緑と水につつまれた」ではなく、歴史的な水と、吹田にはNASAから宇宙へ持って行く水の注文を受ける水づくりの企業もあるので、そのような水、また、環境問題、経済と環境の統合も取り沙汰されているが、持続可能なまちづくりということで、吹田では「アジェンダ21吹田」の運動を進めている。そういった市民の想いをもとに、縄文の森と申しますか、弥生の里山と申しますか、その様なベースを造り、健康問題や教育問題にもアプローチできるようなまちづくりへの強い想いを持っている。吹田、摂津がこれから戦後の大きな転換期を迎えている今、この課題を見事に乗り切れるように、皆様の御指導よろしくお願ひしたい。

※欠席した委員からの伝言を紹介

委員 吹田操車場跡地のまちづくりについては、本年6月の全体構想で、「つながり」というキーワードにより、その方向性が明確になった。すなわち、自然と人、環境と経済が調和してつながる「新たな環境都市」の創出により、持続可能なまちのモデルづくりにチャレンジするという、本当に時宜にかなったものである。今後、具体的な事業の推進段階においては、様々な課題が出て来ると思うが、開発に関わる皆様には、この理念、心意気の実現に向けて、連携・協力をさせていただくことを願っている。

○前回(5/10)以降の経過(報告)

事務局 (資料2~6について説明)

※上記の説明に対して、委員からの質問は無かった。

○コンペ作業部会の検討結果（報告）

事務局（資料7について説明）

オブザーバー 確認させていただきたい。アイデア募集コンペは、将来の事業者を決める、あるいは土地購入者を決める事項とは全く関連がないコンペと理解しているが、間違いはないか。

会長 そのように事務局から説明があったと理解している。

委員 個人または個人のグループからの募集とあるが、やはり専門家からではないか。素人からのアイデアは、手慣れた事業者よりも、技法、技術としては稚拙であってもアイデアとしてはとても豊かなものがあるかもしれない。素人が考えたユニークなものも市民一般に広く公募するのであれば、応募作品の論文、要約、パネルをどのようなものにするのかをよく検討する必要がある。

事務局 作業部会でも議論がなされた。例えば、小学校のクラスからのアイデアも受け取れるような受け皿が必要ではないかと。プロ集団からのよく練られたアイデアと市民感覚、生活者感覚のアイデアもぜひいただきたいと考えている。

会長 今後、本検討結果を基本に実行委員会を設けることで、効果的なアイデア募集コンペを実施していただきたい。実行委員会に参画する皆様には、計画の実現に向けて大事なステップになるので、よろしくご協力いただきたい。

○今後のまちづくりスケジュール（報告）

事務局（資料8について説明）

委員 都市計画の手続きについては吹田市だけか。

事務局 「環境アセス」の項目は吹田市だけである。次項目の「都市計画手続き等」については両市同時期である。

以 上